医務室だより　1月号

身延山大学医務室令和８年１月９日発行

あけましておめでとうございます

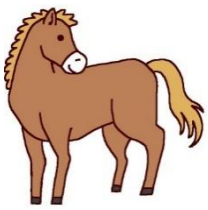
今年は、干支でいうと 60 年に一度の丙午（ひのえうま）の年になるそうです。
前回の丙午の年は昭和 41（1966）年で、この年の日本の出生率をみると 1，58 ですが、前年の昭和 40 年は 2，14 翌年の昭和 42 年は 2，23、またこの年代の平均出生率は 2，21 なので比較するとかなり低くなっています。（参考までに 2024 年の出生率は 1，15）
丙午の年に出生率が低かったのは、昔から伝わる日本のある迷信によるものだと言われています。

ところで、昨年上映された映画『国宝』により歌舞伎が若い人たちに興味を持たれるようになったそうですが、皆さんご覧になりましたか？
吉沢亮さん、横浜流星さんの踊る姿は圧巻でしたね。

歌舞伎・浄瑠璃・落語など日本古典芸能の演目で有名な**【八百屋お七】**の主人公お七の干支は丙午で、このことが原因で丙午年生まれの女性にまつわる迷信が生まれました。

八百屋お七物語

江戸時代前期、江戸本郷の八百屋の娘お七は 1682 年 12 月に起きた天和大火の際、檀家寺に一家で避難しそこで出会った小姓に恋心を抱きました。その後新築された実家に戻りましたが小姓のことが忘れられず、火事が起こればまた会えると思い、再会したい一心で、翌年 3 月自分の家に放火しました。幸い未遂に終わりましたが・・・・・　江戸時代放火犯は重罪で 15 歳以下でも流刑でしたが、お七は素直に 16 歳と話したために鈴ヶ森で火刑に処されました。お七が干支の丙午年生まれであったことから、丙午生まれの女子が疎まれるようになりました。また、丙午年生まれの女性は気性が激しく夫の命を縮めるという迷信に変化して広まったそうです。



『お正月』

作詞　東くめ　作曲　滝廉太郎

もういくつ寝るとお正月
お正月には凧あげて
こまをまわして遊びましょう
早くこいこいお正月

もういくつ寝るとお正月
お正月にはまりついて
おいばねついて遊びましょう
早くこいこいお正月

お正月が近づくとよく歌われた歌ですが、皆さん覚えていますか？

お正月には意味のある昔の遊びがたくさんあります。現在ではほとんど遊んでいる姿は見かけませんが、凧あげ、こま回し、まりつき、追い羽根、福笑い、かるた、百人一首、双六・・・・・

その中からいくつか、意味や由来を紹介します。（出典　参照　AllAbout 暮らし）

凧あげ

平安時代に中国から貴族の遊戯として伝わりましたが、戦国時代には、敵陣までの距離を測ったり、遠方に放火する兵器としても活用されました。
江戸時代になると男の子の誕生祝として凧揚げをするようになり庶民の遊びとして広まりました。
凧が高く上がるほど願い事が神様に届くので願いが叶う、元気に育つといわれています。

こま回し

今から 4000 年前にエジプトで発見されたこまが世界最古のものとされ、日本へは奈良時代ごろに唐から高麗を経て伝来したと言われ、高麗はかつて「こま」と呼ばれていたのでこまという名前になり、【独楽】の名前が用いられました。貴族の遊びから江戸時代には庶民の遊びとして定着しました。
独楽は、物事が円滑に回るに通じて縁起が良く、うまく回ると子供が早く独り立ちできるといわれています。

追い羽根

中国で羽根に硬貨を付けたものを蹴る遊びがあり、これが室町時代に伝来し、江戸時代には羽根つきで厄払いできると信じられるようになり、年末になると邪気を払うための羽子板を送るようになりました。
（浅草の羽子板市が有名で、現在では話題の社会風刺、時事や人気タレントなどを題材にした観賞用の羽子板があります。）
羽子板で突く羽根についている硬くて黒い玉は無患子（むくろじ）という大木の実で、『子が患わ無い』という意味があり、また羽根が病気を運ぶ蚊を食べてしまうトンボに似ていることから、子が蚊に刺されないという願いを込め無病息災のお守りになったと言われています。お釈迦様が無患子の実 108 個でお数珠を作り、弟子たちに渡したという逸話もあります。